



## 「つながり」が育む子どもの学び

教務主任 石坂 友輔

今年度も5月30日（金）、5月31日（土）に第96回教育研究実践発表会を開催することができました。二日間で延べ1000人を超える多くの方にご参会いただき、たくさんの方に子どもたちの頑張る姿を見ていただきました。

堀川小学校では、一人ひとりの子どもが学校での教育活動を通して、自分の目当ての実現や、自らの成長が感じられるよう、自分なりに取り組むことができるような場を大切にしています。朝活動では身の回りの環境と、くらしの時間や学習においては仲間や教材と、そうした様々なものと、その子なりに「つながる」ことで、子どもたちは新たな気づきを得ながら、自分なりの取組をみつけていきます。

今回の研究会においても、子どもがその子らしく豊かに対象と「つながる」様子をたくさん見るすることができました。1年生のまちでは、栽培の庭に「どろんこ広場」がつくられました。1組の子どもたちは、そこでお風呂を作ったり、滑り台を作ったりと、様々な遊び方を考え、文字通りどろんこになりながら活動を楽しんでいます。泥という素材や、そこに作られた環境と「つながる」ことで広がる世界です。また、限られたスペースなので、互いの遊び方がぶつかってしまい、どう折り合いをつけていくか話し合う場面もありました。仲間との「つながり」も、大切な成長のきっかけを与えてくれているようです。

3年生のまちでは、教室やベランダにたくさんの植物が育っています。3組の子どもたちは、種から育ててきた様々な植物を、からだのつくりに着目しながらじっくりと観察しています。それぞれに愛情をかけながらじっくりと「つながり」、植物の種や根がもつ、生きるための力強さを感じています。



＜作品を通して考える子ども＞

「つながり」はこうした環境や動植物にとどまりません。5年生のまちに足を運べば、教室の中にはところせましと「やなせたかし」さんに関する書籍が飾られています。教科書に掲載されている伝記を通して、子どもたちは「やなせたかし」という人の考えや生き方と豊かに「つながり」、自分の思いを深めているようでした。この他にも、鉄棒や木工、物語や社会事象等、様々な「つながり」の中で、それに真剣に心を寄せ、思い切り、自分なりに考えながら活動していく子どもの姿に至る所で見ることができました。

そして、こうした子どもの学びを支えているのが学校と地域との「つながり」です。今年度も有成会の方々が広く協力を呼びかけていただきました。そのおかげで、役員の方だけでなく、大変多くの方のご協力を得ることができました。駐車場での交通整理、受付、著書販売、クローク、記録写真、体育館準備等、研究会の縁の下での力持ちとなって、様々な場面で支えていただきました。県内外から本校を訪れる方々が気持ちよく参観することができ、子どもたちが思い切り学ぶことができたのも、こうしたご尽力のおかげです。こんなあたたかな「つながり」を感じながら研究会を行えたことには、感謝の言葉しかありません。ありがとうございました。

真剣に様々なものと「つながり」ながら学ぶ子ども、それを支える先生方や参観される先生方、地域の皆様の「つながり」、それをずっと紡いできた歴史の中の「つながり」等、たくさんの人や思いが折り重なりながら、これからもこの研究会が続いていくのだなと感じます。



＜どろんこ広場で活動する子ども＞



＜自分の植物と授業に臨む子ども＞

## 6月の行事予定

- 2日(月) 市小教研(午後短縮)
- 3日(火) 市小教研(事務部会)
- 5日(木) 堀川チャレンジ活動③  
眼科検診(全校)  
小中連携あいさつ運動  
(～6日)
- 6日(金) 集金振替日  
プール清掃(5年)  
内科検診(2年)
- 9日(月) 教育相談①(午後短縮)
- 10日(火) 内科検診(5年)  
教育相談②(午後短縮)
- 11日(水) 内科検診(なかよし級・1年)
- 12日(木) 堀川チャレンジ活動④  
耳鼻科検診(なかよし級・1・3・5年)
- 13日(金) 学習参観(5限)  
避難訓練(引き渡し)安全点検
- 16日(月) 教育相談③(午後短縮)
- 17日(火) 教育相談④(午後短縮) 内科検診(4年)
- 19日(木) 委員会活動④  
第4学年集団宿泊学習(～20日(金))
- 23日(月) プール開き たしかめ週間(～27日(金))
- 26日(木) 第2回学校運営協議会



## 7月の行事予定

- 1日(火) 集金振替日  
第6学年立山博物館見学
- 2日(火) 第5学年イタイタイ病資料館見学
- 3日(木) 堀川チャレンジ活動
- 5日(金) 近隣ファミリー会・地域教育推進協議会
- 7日(月) 個別懇談会①
- 8日(火) 個別懇談会②
- 9日(水) 個別懇談会③
- 10日(木) 個別懇談会④
- 11日(金) 個別懇談会⑤
- 16日(水) 避難訓練 安全点検
- 17日(木) 委員会活動
- 21日(月) 栄海の日
- 23日(水) 給食最終日
- 24日(木) 第1学期終業式
- 25日(木) 夏季休業日(8月26日まで)
- 31日(木) 第6学年集団宿泊学習(立山)  
(～8月1日)



## 「いただきます」を通して考える命

4年1組 横道 直

道徳科「いただきます ごちそうさま」という学習でのことです。「いただきます」の意味についてお互いの考えを聞き合いました。Aさんは、「給食を作っている人たちにありがたうという意味だと思う。毎日全校の分を作っているなんて自分だったらできない」と話し始めます。これまでの生活や給食時間の放送、調理員さんに感謝を伝えよう週間等で、自分たちのために働いてくださっている方たちへの感謝の気持ちを育んできたAさんです。その後も調理員さんへの思いが話題となりますが、Bさんが別の考えを話し始めます。「ぼくは、動物や野菜がかわいそうだと思う。だって、例えば、豚肉だったら、いつもお世話をしてくれた飼育員さんから離れて命をとられるってことでしょ。魚だって、えさにおびき寄せられて捕まってしまう。自分だったら悪い人に騙されているってことだから怖い。だから、ぼくたちが生きるために食べ物になってくれてありがたうと思う。ぼくは、給食を残すことがある。だから、残さないようにしていきたい」と話すのです。作ってくれる人という視点だけでなく、食物になる動物やそれを育ててきた飼育員という視点にふれ、命をいただく重みや有難さを感じ始めた子どもたちなのでした。その話を聞いたAさんは、再び挙手し、「心が痛んできた。当たり前じゃないのだから。これまでいただきますって言っていたけれど、何も考えていなかったと思う」と話したのです。心が痛んできたという言葉に、Aさんの学びが滲みます。人の支えや苦勞に向き合ってきたAさんですが、苦勞という次元を通り越し、食材の命をいただくということの厳しさを感じ取り、思わず自分の発している「いただきます」を見直さざるを得なくなったのでしょうか。食物の有難さを真剣に話す仲間を目にし、子どもたちもしんと聞き入っていました。

Aさんは、給食の片付けを丁寧に行うようになりました。自分で食べきれない量を考え配膳するようになりました。もし、残してしまったとしても、食缶に静かに返します。学級の子どもの片付けへの意識も変わってきたように思います。昆虫が大好きなBさんは、グラウンドで見つけたトンボを、大きな虫かごで飼育しようとしていました。周りの仲間に、「道徳でいいこと話していたでしょ。トンボにはその虫かごは狭すぎるよ。」と諭されます。飼いたい気持ちと少々葛藤したBさんでしたが、食物をいただく重みを話していた自分を振り返り、窓から逃がしてあげていました。わたしも、家で飼っている熱帯魚の様子が妙に気になり始めました。